

各種報告

東北地区本部 第34回定期大会報告

8月28日(水)、秋田市内において貨物鉄産労東北地区本部の第34回定期大会を開催しました。

秋本執行副委員長による開会の挨拶では、資格審査結果を経て大会成立が宣言され、議長には佐藤執行委員を選出し、議事が進行されました。執行部を代表して挨拶に立った小笠原執行委員長兼本部副委員長は、貨物会社の経営状態、新人事制度、選挙関係、安全問題、組織関係等の話を織り交ぜながら、「東北地区本部組合員数は減少の一途をたどっており、今後の方向性を真剣に考えていかなければならない。労災が多発している今日、業務においては安全最優先を常に忘れないでほしい。今後もJR連合・貨物鉄産労運動の正しさを多くの人に伝えていただきたい」と述べられました。

来賓挨拶では、全交運共済高橋支所長より御挨拶を頂き、続いて、祝電・メッセージが披露され、その後、足利書記長より、これまでの経過の報告・2019年度の運動方針(案)・2018年度決算報告・2019年度予算(案)を一括して提起し、質疑応答に入りました。執行部からの集約答弁後、すべての議題が満場一致で承

認され、大会宣言案を読み上げ採択し、小笠原委員長による「団結ガンバロー」で大会を終えました。
大会終了後、横山聖二氏、佐藤春美氏、堀野優氏の退職者激励会を開催し、その後、場所を移し懇親会を開催しました。



JR連合静岡県協議会第2 8回定期委員会報告

8月31日(土)、JR連合静岡県協議会第28回定期委員会が静岡市内において開催され、貨物鉄産労からは、和田常任委員・辻村代議員・小山代議員の3名が出席しました。

定期委員会の前段に、協議会セミナーが開催され、講師に参議院議員矢田わか子氏を招き、年金・国の一般会計歳出・歳入・教育への投資・子育て支援と貧困対策等の様々な問題について話して頂きました。

年金問題では、超高齢化社会に進んでいく中で、今の制度のままで本当によいのか？ 予算問題では、防衛費として、米国から1機数百億円もする戦闘機を値引き交渉も一切せず、何百台も購入している。1機1億でも値引きすれば、100億円近く浮き、他の予算に充てる事ができる。教育問題では、子供にかかる費用は年々増しており、義務教育は無償化さらには高校無償化等を早期に実現していかねばならないなど、大変分かりやすく丁寧に話して頂き、参加者は熱心に聞き入っていました。



矢田わか子参議院議員



丸山議長



半田議長

セミナー終了後、定期委員会に入り、開会挨拶後、資格審査委員会を経て委員会成立が認められ、議長を選出し議事に入りました。

来賓には、東海地協丸山議長・入谷副議長にお越し頂き、ご挨拶を頂戴しました。

委員会を代表として挨拶にたった静岡県協半田議長からは、参議院選挙総括・安全問題・組織課題等を述べられ、続いて執行部より、2018年度活動経

過報告・2018年度決算報告・2019年度活動方針(案)・2019年度予算(案)について、一括して提起し質疑応答に入りました。
辻村代議員からは、参議院選挙の取り組み・2019春闘・沼津駅構内触車事象・組織課題・政策課題について発言し、半田議長による集約答弁後、役員改選に入り、2019年度新執行部が決まりました。その後、委員会宣言(案)を提案採択し、議長を解任後、半田議長による「団結ガンバロー」で閉会しました。
閉会后、場所を移動し、参加者全員で懇親会を開催し、更なる親睦を図りました。

事故も病気も
予測はできない。
共済が心強い。



交通災害共済/生命共済/入院共済

JRグループ労組連絡会第27回総会報告

9月3日、JRグループ労組連絡会第27回総会が岡山市内において開催され、貨物連合からは小山幹事（貨物鉄産労中央執行委員）が出席しました。

開会挨拶後、資格審査を経て総会成立が認められ、来賓挨拶ではJR連合萩山会長、JR西労組白壁副委員長、交運共済松岡理事長にご挨拶を頂戴しました。総会を代表として挨拶にたった八木代表幹事からは、「安全は絶対に譲れないとの信念から取り組みをしてきたが、4件の労災死亡事故と多くの重大労災を発生させてしまった。基本動作にこそ意識を持つことが安全確立に繋がる。春闘については57単組でベアを獲得したほか、7単組はJRを上回るなど多くの成果があった」と述べられ、その他、人材の確保やJR東日本大量脱退にも触れ、JR関係労働者の総結集の重要性を話されました。



JR連合萩山会長



北村事務局長

続いて北村事務局長より、活動報告・活動方針（案）を提起し、中期労働政策ビジョン（2019～2020）13についての講義を経て、各分科会に別れ2019春闘の成果と課題・働き方改革関連法への対応について討議し、各分科会からの討議報告を行いました。

JR貨物連合としては働き方改革関連法の規制よりも上回る条件で36協定の締結、施行より前倒して取り組んでいくことを報告し、各分科会からの質疑応答を行い、今後の活動方針を採択し、最後に八木代表幹事による「団結ガンバロー」で閉会しました。

JR連合産業政策委員会を開催

9月2日、都内において、JR連合産業政策委員会を開催し、貨物鉄産労からは、菊地特別中央執行委員長（北海道地区本部委員長）が出席し

ました。

議題では、

1. 2019年度の産業政策活動の取り組みについて
2. 直近の課題への対応について
3. 「チーム公共交通」「チーム地域共創」の形成にむけた取り組みについて
4. 各種課題と経営安定化にむけた「政策勉強会」の設定について
5. すべてのJR産業における政策課題解決にむけた取り組み
6. 各単組の産業政策課題の取り組み等について

等の話し合いが行われ、直近の課題への対応として、2020年度政府予算編成および税制改正要望にむけた取り組みについては、

既に4月に次年度予算編成及び税制改正に関する要望事項を盛り込んだ要請行動を鉄道局に実施しているが、さらに国土交通省に対して予算編成及び税制改正に反映されるよう、取り組みを進めていく。

・各政策課題に対する具体的要求について、重要性・緊急性などに鑑みながら、JR連合と鉄道局との間で繰り返し折衝を重ね、課題や論点の打ち込みを行う。

・併せて、その後の財務省・総務省折衝段階における国交省の取り組みを後押しすべく、JR連合国会議員懇談会所属議員との連携を強化し、必要に応じて要請行動を行うなど、税制大綱・予算案決定

までねばり強く取り組みを行う。

・なお、要請行動等については、その他政策課題への対応と調整しながら進めていくこととなりました。

〈今年度（2020年度改正）の主な税制改正要望項目〉

・JR貨物が取得した高性能機関車に対する固定資産税の特例措置。

・鉄道事業に利用される軽油に係る地球温暖化対策のための税（石油炭素税の重課分）についての還付措置。

・JR貨物に対する買換特例（長期保有の土地等から電気機関車への買換え）

・駅のバリアフリー化改良工事により取得した鉄道施設に係る固定資産税の特例措置

・首都直下地震・南海トラフ地震に備えた耐震対策により取得した鉄道施設に係る固定資産税の特例措置。

※その他、防災・減災対策、整備新幹線財源など予算関係の内容についても動向を注視しつつ対応していく。

また、現在共用走行を実施している青函トンネルを含む当該区間の課題があります。

貨物鉄産労はJR連合とともに、JR北海道・JR貨物がめざすべき将来の姿としての持続可能な交通体系（人流・物流）の構築とともに、長期的な経営安定の維持という観点にたった新たな経営支援スキームの検討・構築を求めていきます。

西日本旅客会社で感電労災が発生（詳細は調査中）

・日時 9月5日 2時43分頃

・場所 東海道線安土駅構内

・概要 固定ビームから梯子を使用し、降りる際に加圧中の吊架線と固定ビームに触れる重傷状況

作業員（54歳）

会話でき歩行可能な状態
右人差し指先端やけど、右親指・中指の水ぶくれ ※症状の程度は不明

作業員（33歳）

会話でき歩行可能な状態
左右太もも裏側電撃痕、左手中指・薬指の第2関節やけど ※症状の程度は不明

労災が多発しております。業務においては、安全最優先を心掛けてください。

お知らせ

・JR連合賃金実態調査のご理解ご協力をよろしく願っています。
9月分の給与で行います。

・9月29日、13時30分、拡大執行委員会を開催します。
※同日12時30分、組織財政検討委員会を開催します。